

千住博の不易流行



第四十回

小畑亮平

おばた・りょうへい
1980年兵庫県出身。2003年同志社大学文学部文化学科哲学及倫理学専攻卒業。15年千住博ザ・スーパー・アートスクール研究生。16年第31回ホルベイン・スカラシップ奨学生、枕崎国際芸術賞・日本の絵画 2016入選。17年アートオリンピック 2017入賞。現在京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術環境専攻修士課程在籍。



気配の彫刻

小畑亮平は自然環境の中で見つけた自然物の形態を用いる。時としてそれはグロテスクでもある。しかし小畑がいわゆるアースワークのアーティストたち、例えばデイヴィッド・ナッシュやアンディ・ゴールズワージーと違うのは、作品にかなり人工的に手を加えているということだ。ナッシュの作品は生きた森そのものの置換であるし、ゴールズワージーの作品は、あっという間に消えてなくなる無常の表現だ。

小畑の場合は再現された「気配」だ。それが都市に置かれた場合、かつてそこに存在した木々や苔の記憶と重なり、場の「念」として生まれかわる。それははるかにアースワークを飛び超え、アニメズムすらも通り越し、現代人の心の虚無と文明の何たるかを伝える。

小畑亮平の造形は、現代人が心の奥底で感じる焦燥感や、現代社会の軋轢の生み出す心に突き刺さる痛みのような感覚の表現なのかと思う。



「いかなる共棲みであるのか」2017年 北山杉(台杉)、油彩、ミクストメディア 40.0×36.5×H30.0cm

せんじゅ・ひろし

1958年東京都生まれ。82年東京藝術大学卒業、87年同大学院後期博士課程単位取得満期退学。東洋人初のヴェネツィア・ビエンナーレ名誉賞受賞。2016年平成28年度外務大臣表彰受賞。17年第4回イサム・ノグチ賞受賞。



「いかなる共棲みであるのか」2015年 檜、板、油彩、ミクストメディア 51×55×H82cm